


様式第5号

出張調査報告書

平成29年6月6日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 日本共産党

代表者氏名 吉田俊一 

下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成29年5月15日から平成29年5月15日
2 視 察 地	(1) 越谷市都市整備部都市計画課
3 視 察 目 的	公共交通整備とミニバス試験運行について (1) 平成26年度に実施した地域ミニバス試験運行の内容と結果について (2) 新しく開通した上間久里循環バス試験運行の内容と結果について (3) 交通不便地域の対策について
4 視 察 者 氏 名	吉田俊一、平野千穂
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

視察概要

平成 29 年 5 月 15 日午後 1 時 30 分から越谷市役所本庁舎第 5 会議室にて説明を受ける。対応してくださったのは都市整備部都市計画課のみなさん（課長 井出さん、調整官 平野さん、担当 染谷さん）。調査事項について、以下の関連資料を用意していただき一括して説明を受けた後、質疑応答、意見交換を行った。

配布資料

- 資料 1 新方地区におけるミニバスの試験運行結果報告書（概要版）
- 資料 2 「せんげん台駅東口～上間久里循環」線等の開設にいたる経緯について
- 資料 3 越谷市知己公共交通網形成計画（概要版）

注目した内容

■ミニバス運行結果

①運行地域のうち利用がほとんどなかった地区があった（最初のお試し乗車のみ）。近く既存のバス路線のバス停があった地区 ②バス停ごとの利用実績がていねいに調査されていたが、降りる場所がせんげん台駅に限定され利用者数が伸びていない。浄水場から駅までは既存のバス路線と競合することからバス停を設置しなかったとのこと。③タクシー会社 3 社と 2 か月づつ半年の運行実験約 600 万円の委託費。少し高めの価格。実験後の懇談で、ターゲット・対象を絞り込んだほうが良いのではという意見があった。通勤者を対象にするのか、高齢者を対象にするのかで運行時間が違う。タクシー会社の通常のお客さんの利用と重ならなければ運営委託費は圧縮できるという。

④試験運行は採算が取れないという結果だったが、利用者数が多いバス停を中心に一部地域ではジャパンタローズのバス路線を新設された。

■せんげん台東口～上間久里循環線の開設に至る経緯

もともと茨城急行バスの路線だったが、撤退の申し入れがある。周辺住民からの苦情トラブルと、利用者が少ないことが理由。地域住民から存続を求める陳情があり、バス事業者と協議。

撤退路線をジャパンタローズが引き継ぐことで合意。循環コースの運航のため、日中の松伏～せんげん台東口のバス路線の便数を減らして調整したとのこと。

■交通不便地域の対策

既存の公共交通の活用を中心とする整備方針が作られている。市が財源を負担する形でのコミュニティバスは実施していない。事業費のうちどのくらいまで市が負担できるのか、県内でもいろいろなケースがあるという認識。担当課としては宇都宮市の事例がすぐれている、モデルにしているとのこと。地域バスの運行に地域移住民がお金の問題、運行計画まで責任を持って実施しているとのこと。越谷市で住民との懇談で、宇都宮市の事例の話をするが反発も大きかった。越谷市民にまだそれだけの意識はない状況と考えている。